

健康寿命の延伸や医療・福祉サービスの改革などを テーマに掲げ、高齢化のピークを見据えた議論を開始

～厚生労働省の新たな改革本部～

厚生労働省は2018年秋、「2040年を展望した社会保障・働き方改革本部」を設置し、いわゆる団塊ジュニア世代が高齢者となる時期を見据えた政策に関する議論を開始しました。国民誰もがより長く元気に活躍できる社会を実現するため、①多様な就労・社会参加の環境整備、②健康寿命の延伸、③医療・福祉サービスの改革による生産性の向上、④給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保——をテーマに掲げて取り組みを進めていくとしています。

疾病予防・重症化予防など3分野を 中心に健康寿命延伸プラン

新たな展望は、2019年10月に予定される消費税率10%への引き上げによって、2025年を念頭に進められてきた社会保障と税の一体改革が区切りとなるため、「その次」を見据えた検討を進めるものとなります。

改革本部は、厚生労働大臣を本部長としており、部局横断的な政策課題について従来の所掌にとらわれることなく取り組むため、プロジェクトチームが置かれています。

取り組みのうち、健康寿命の延伸と医療・福祉サービスの改革プランについては、2019年の夏をめどに策定するとしています。2040年に向けた目標と2025年までの工程表が示されます。

健康寿命延伸プランの方向性については、「次世代を含めた全ての人の健やかな生活習慣形成等」「疾病予防・重症化予防」「介護予防・フレイル対策、認知症予防」の3分野を中心に据えています。健康無関心層へのアプローチを強化しながら、地域・保険

団塊ジュニア世代

第1次ベビーブームとされる1947年～1949年生まれが団塊の世代と言われるのに対し、第2次ベビーブームの1971年～1974年生まれの世代を指すものとして使われている。

者間の格差の解消を図ることによって、個人・集団の健康格差を解消し、健康寿命のさらなる延伸を図る、といったことが挙げられました。

生活習慣病の発症・重症化予防のため、医療機関と保険者・民間事業者等が連携し、医学的管理と運動・栄養等のプログラムを一体的に提供して住民の行動変容を促す仕組みの構築や、認知症予防を加えた認知症施策の推進などがプランとして想定されています。

疾病予防、重症化予防については、保険者に対する(支援金の交付などの)インセンティブ措置の強化、先進・優良事例の横展開等による疾病予防・重症化予防の推進のほか、がんの早期発見に向けた精度の高い検査方法などの研究・開発も挙げられました。

また、高齢者が身近な場所で定期的集い、身体を動かす場などを大幅に拡充することや、介護予防事業と高齢者の保健事業(フレイル対策)との一体実施の推進、野菜摂取量増加に向けた取り組みなどの横展開、民間主導の健康な食事・食環境の認証制

フレイル

加齢とともに、心身の活力(例えば筋力や認知機能等)が低下し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡などの危険性が高くなった状態を指す(厚生労働省の説明資料による)。

度などの普及支援といった、自然に健康になれる環境づくりの推進も挙げられています。

現役世代の減少を見込んで 医療・福祉サービスの改革プラン

医療・福祉サービスの改革プランの方向性には、「ロボット・AI・ICT等の実用化推進、データヘルス改革」「タスクシフティング(業務の移管)を担う人材の育成、シニア人材の活用推進」「組織マネジメント改革」「経営の大規模化・協働化」の4つの改革が挙げられました。

2025年以降、社会の担い手である現役世代の減少が一層進むと見込まれる中で、生産性の向上を図ることにより、必要かつ適切な医療・福祉サービスが確実に提供される現場を、4つの改革を通じて実現するとしたものです。

ロボット・AI等の実用化構想の検討やデータヘルス改革に関し、2020年度までの事業の着実な実施と、それ以降の絵姿(医療情報の標準化、全国的な保健医療情報ネットワーク等)・工程表を策定すること

などが挙がっています。

介護分野では、介護施設における業務フローの分析・仕分けを基に、①介護助手、②センサーを含む介護ロボット、③ICTの活用等を組み合わせた業務効率化のモデル事業を2018年度中に開始し、効果を検証の上、全国普及を図ることが示されました。

また、オンラインでの服薬指導を含めた医療の充実も検討課題にされています。

なお、データヘルス改革については、2020年度までの工程表に、次のような8つのサービス提供を目指すことが掲げられています。

- ①保健医療記録共有(初診時等に医療関係者が患者の過去の健診・診療・処方情報等を共有=2020年度からの稼働を目指す)
- ②救急時医療情報共有(医療的ケア児・者等の救急時や災害、事故の際に、医療関係者が、迅速に必要な患者情報を共有=2019年度中にシステム本格運用)
- ③健康スコアリング(健保組合等の加入者の健康状態や予防・健康増進等への取組状況をスコアリン

取り組み概要

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指す

現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した政策課題

多様な就労・社会参加	健康寿命の延伸	医療・福祉サービス改革
【雇用・年金制度改革等】 ●更なる高齢者雇用機会の拡大に向けた環境整備 ●就職氷河期世代の就職支援・職業的自立促進の強化 ●中途採用の拡大 ●年金受給開始年齢の柔軟化、被用者保険の適用拡大、私的年金の拡充 ●地域共生・地域の支え合い	【健康寿命延伸プラン】 ※2019年夏をめどに策定 ●2040年の健康寿命延伸に向けた目標と2025年までの工程表 ●健康無関心層へのアプローチの強化と、地域・保険者間の格差の解消により、以下の3分野を中心とした取り組みの推進 ①次世代を含めた全ての人の健やかな生活習慣形成等 ②疾病予防・重症化予防 ③介護予防・フレイル対策、認知症予防	【医療・福祉サービス改革プラン】 ※2019年夏をめどに策定 ●2040年の生産性向上に向けた目標と2025年までの工程表 ●以下の4つのアプローチにより、取り組みを推進 ①ロボット・AI・ICT等の実用化推進、データヘルス改革 ②タスクシフティングを担う人材の育成、シニア人材の活用推進 ③組織マネジメント改革 ④経営の大規模化・協働化

引き続き取り組む政策課題

給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

(厚生労働省資料に基づいて作成)

